

第2回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

東青地区：令和8年7月23日（木）県総合社会教育センター

参加者12名

上北地区：令和8年7月27日（月）三沢市国際交流教育センター

参加者21名

1 内 容

【講 義】「子どもの気持ちを理解するために」

講師 八戸学院大学短期大学部 こども教育学科

教授 さしなみ なおき 氏

【演 習】「あおもり親楽プログラムⅠ」

進行 県総合社会教育センター職員



【経 歴】

北海道教育大学を卒業後、札幌市立幼稚園3園に17年間勤務。平成26年から八戸学院短期大学幼児保育学科講師として勤務し、現職に至っている。大学では、「保育者の関わりと保育の質」等を主たる研究テーマとし、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携と接続について研究している。

また、長きにわたる幼稚園教諭の経験を踏まえ、「幼児期の教育」についての講義や、子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」ことのできる遊び場・プレーパークを学生と一緒に八戸地域で展開している。

【講義趣旨】

- ・ICT機器の発展やインターネットの一般化、AIの充実など、子どもたちを取り巻く環境は、ものすごいスピードで変化し続けている。
- ・子どもたちが自分から「やってみたい」「こんなふうにしたい」と思い、遊び始めることが大切で、この思いを内発的動機という。内発的動機によって、「遊び」が自分たちの力で、あるいは保育者の助けを得ながら展開できるよう、保育者は「遊び」をリードするのではなく、遊びの主体者としての子どもを支えるイメージをもつことが大切である。
- ・「支援」は支え、援けることであり、自ら行動する主体者がいるからこそ成り立つものである。何かを一方的に「教える」のではなく、その主体の思いや考えを尊重しつつ、支え、援けていくことが求められる。
- ・子どもや保護者の思いに耳を傾けて丁寧に聴くこと、そして支援者が相手のおもいを「能動的におもう」姿勢をもち共感することは、相手の安心感につながる。

2 受講者の感想

- ・ものすごいスピードで変化している子どもたちの環境について、理解できるよう努めたいです。幼児については、「やってみたい」という内発的動機が生まれるよう支援したいと思いました。また、保護者の方々から現状等を聞くときは、傾聴を忘れないようにしようと思いました。
- ・支援をするにあたって、「一緒に問題について考える」姿勢がとても大事だし、支援される側も、支援者がどういう姿勢で自分と向きあっているかを感じ取っているので、「能動的におもう」姿勢を意識していきたいと思いました。
- ・子どもの遊びたい気持ちが育ち続けるように、居場所作りや遊び場の構成など、私たちのできることを形にしていけたらいいです。